


## VII

## 県立学校の教育環境の改善

## 1 豊かな学びを実現する教育環境の整備

## 主な取組概要及び自己評価等について


## ① 校舎等の耐震補強・老朽化対策等の実施

取組み1 「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画) <sup>1</sup> に基づく県立学校の環境整備	
<b>【取組概要】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県立学校において、子どもたちの安全を確保し、安心して快適に過ごせる環境整備を進めるため、「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画)に基づき、耐震化対策や老朽化対策、トイレの洋式化など総合的な施設整備を実施。</li> <li>県立高等学校及び県立中等教育学校に生徒用の災害時用携帯トイレを整備。これによりすべての県立学校への整備が完了。</li> <li>平成30年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震により、小学校のコンクリートブロック塀が倒壊し、児童が亡くなった事故を受け、全県立学校におけるコンクリートブロック塀の緊急点検を行い、対応が必要なコンクリートブロック塀について建替工事等を実施。また、市町村立学校については、各市町村に点検及び対応状況を確認。</li> </ul> <div data-bbox="975 589 1444 918" style="text-align: right;">  <p style="text-align: center;">耐震化工事</p> </div>
<b>【自己評価】</b>	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化工事(県立高校の耐震化率76%)や老朽化工事、トイレの環境改善に係る工事を実施したことにより、教育環境の改善に寄与した。</li> <li>児童・生徒の安全を確保するため、コンクリートブロック塀の緊急点検の結果、対応が必要な14校42か所について建替工事等を行った。また、市町村立学校においても、撤去や注意喚起等の安全対策を実施していることを確認した。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震化対策や老朽化対策等については、計画に則り継続的な事業実施が必要である。</li> </ul>

<sup>1</sup>「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画)

まなびや計画で残された課題である、小規模な耐震補強が必要な校舎等の耐震化、総合的な老朽化対策及びトイレの洋式化等の整備等について、県立高校改革実施計画と整合を図り、平成28～令和9年度の12年間(第1期は平成28～令和元年度、第2期は令和2～5年度、第3期は令和6～9年度)に、概ね1,500億円の事業規模により取り組んでいく。

## ② 実験・実習等に係る設備の整備

取組み1 実験・実習等に係る設備や備品の整備	
【取組概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門高校に整備している備品について、修理不能な状況や安全性の確保ができないことから、使用困難な物品が多くなっているため、教育活動に支障をきたしている備品の更新を優先的に実施。</li> </ul>  <p style="text-align: right;">マシニングセンタ<sup>2</sup></p>
【自己評価】	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門高校における備品の現状を把握し、備品整備計画を実施するとともに、特に老朽化が著しいマシニングセンタや旋盤等を優先的に更新することができ、安全で効率的な実習を実現できた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き計画的な整備を行うことが必要である。</li> </ul>

取組み2 地域と連携した実習	
【取組概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門高校で、地域の企業や自治会等と連携し、商品開発や販売実習、ものづくりを行うなど、それぞれの産業の特性を生かした連携を推進。</li> </ul>
【自己評価】	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域企業や自治会等との連携により、社会に開かれた学校づくりを推進することができ、地域の活性化に貢献できる実践的な教育活動を実施し、地域との連携が促進された。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地の活用など、地域の課題等に着眼して取組みを進め、多角的に地域の活性化に貢献していくことが必要である。</li> </ul>

## 有識者の意見

## ① 校舎等の耐震補強・老朽化対策等の実施

- 「県立学校施設再整備計画」に基づき、校舎の耐震対策・老朽化対策及びトイレの環境改善が着実に実施されてきていることを評価する。しかし、まだ多くの学校で早急な対策工事が必要である。
- 既に環境整備された学校では、子どもたちが安全で快適な学校生活ができている。家庭や社会の環境の変化に伴い、学校施設の機能や性能の向上が求められている。厳しい財政状況下ではあるが、残された学校についても引き続き計画どおり実施される必要がある。
- 校舎等の改築に伴い、伝統校に所蔵されている古書や標本等が散逸してしまうことを危惧する。これらは県民の財産で、教材としての価値も大きいので、校舎改築の際には十分配慮

<sup>2</sup> マシニングセンタ

工具自動交換機能を持ち、目的に合わせて平面加工や溝加工、穴あけ、ねじ立てなどの異種の加工を1台で行うことができる工作機械。

が必要である。

- 県立高等学校及び県立中等教育学校に生徒用の災害時携帯トイレを備蓄したことは防災教育への意識が高まることにつながる。

## ② 実験・実習等に係る設備の整備

- 理科や専門高校の実習・実験の設備・備品の老朽化が目立っており、その整備が求められる。
- 工業高校においては、普通科高校に比べ早い時期から専門教育を受けることができ、実験・実習は重要である。しかし、急速な科学技術等の発展状況や安全性の確保から、主要設備の更新が求められている。経費負担が大きい中、今回マシニングセンターや旋盤等を新しく購入できたことは、現場の教員にとって大きな戦力となり、生徒たちの専門教科に対する学習意欲の向上につながり、教育効果が高く、評価する。
- 技術革新が著しい昨今、普通科高校の設備・備品も新しい基準による更新が急がれるが、財政状況が厳しいので、高大連携やコンソーシアムなどで施設等を積極的に活用することが求められる。
- 各専門高校で、地域の企業や自治会等と連携した取組みが成果をあげていることを評価する。こうした取組みは、実践的な教育活動として、生徒の社会参加や社会貢献への意識を高めるとともに、学校を核とした地域づくりにも役立つので、積極的に推進することが求められる。

## 今後の対応方向

### ① 校舎等の耐震補強・老朽化対策等の実施

#### 取組み1 「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画)に基づく県立学校の環境整備

- ・ 耐震化対策については、小規模な補強が必要な校舎等約200棟について、計画第2期末の令和5年度までに耐震化を実施、令和元年度では25校の耐震化工事を予定している。
- ・ 老朽化対策については、計画第2期末の令和5年度までは、耐震化対策と併せた施設の長寿命化を、計画第2期・3期では、給排水管更新等、総合的な施設の長寿命化対策を予定している。
- ・ トイレ環境改善については、第1期末の令和元年度までに、各学校で1棟以上の整備を行い、計画第2期の令和5年度までにすべての校舎等を整備する予定としている。
- ・ 空調設備の整備については、高校は生徒の使用頻度が高い特別教室を、特別支援学校は特別教室・体育館を整備対象とし、令和元年度は2年度工事の設計等を実施していく。
- ・ 施設整備に当たっては、文書等が散逸することがないように十分に注意していく。
- ・ コンクリートブロック塀については、定期的に点検を行い、対応が必要な場合は速やかに建替工事等を実施していく。また、市町村へ必要な情報提供等を行っていく。

### ② 実験・実習等に係る設備の整備

#### 取組み1 実験・実習等に係る設備や備品の整備

- ・ 各専門高校における備品の耐用年数と老朽化や使用状況、新学習指導要領を踏まえた必要性等を精査し、今後使用する備品や新たに必要とする備品の整備を計画的に進めていく。
- ・ 自校の実習設備に加え、企業や研究機関、職業技術校での実習など、外部機関との連携を深めた取組みについて、引き続き推進していく。

**取組み2 地域と連携した実習**

- ・ 地域の活性化に貢献し、社会に開かれた学校づくりをめざすためにも、地域の課題等に着眼した実践的な教育活動が進められるよう、校長が集まる会議や、各教科の教員が集まる教科研究会等を通じて呼びかけを実施していく。

**2 効率的で主体的な学校運営の推進のための教育環境の改善****主な取組概要及び自己評価等について****① ICT環境の整備****取組み1 校務用パソコンの整備**

<b>【取組概要】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の業務負担軽減のため、教員が校務に使用するノートパソコン3,205台を配備。</li> </ul>
<b>【自己評価】</b>	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校務パソコン3,205台の配備により、常勤教員1人につき校務用パソコン1台を割り当てることができた。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、計画的に校務用パソコンの更新を行う必要がある。</li> </ul>

**取組み2 ネットワークセキュリティー機能強化**

<b>【取組概要】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットワークトラブル発生時の教員業務の負担を軽減するため、ネットワーク機器を更新。</li> <li>・ セキュリティーの確保を図るため、ファイル交換機能<sup>3</sup>を導入。</li> <li>・ ホームページ作成・更新作業を簡略化し、教員の業務負担を軽減するために、CMS<sup>4</sup>を段階的に導入。</li> </ul>
<b>【自己評価】</b>	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 64校639台のネットワーク機器を更新し、ネットワークトラブル発生時の教員の業務時間を削減できた。</li> <li>・ ファイル交換機能の導入により、USBメモリ数を削減でき、セキュリティーを確保できた。</li> <li>・ 学校向けに研修を行い、96校にCMSを導入したことで、今後の教員の業務負担軽減につながった。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も教員の業務負担を軽減するため、引き続き、ネットワーク機器の未更新校に整備を進めていくことが必要である。</li> <li>・ セキュリティーの確保については、今後も継続的に進めていくことが必要である。</li> <li>・ 未導入校に対して、CMSの導入を進める必要がある。</li> </ul>

**3 ファイル交換機能**

USBメモリ等外部記憶媒体を用いず、ネットワーク上（校務用ネットワークと教育用ネットワーク間）でデータのやり取りができる機能のこと。

**4 CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）**

ホームページなどのウェブコンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築し、編集するソフトウェアのこと。

## 有識者の意見

### ① ICT環境の整備

- これまで課題であった「常勤教員一人につき校務用パソコン1台を配備する」ことについて、今回達成されたことは業務負担の軽減や教材の作成等、教育活動の一層の充実となり、生徒への教育効果が期待される。
- ネットワーク機器の更新は、教員業務の負担軽減につながり、ファイル交換機能の導入は、USBメモリの媒体を使うことなく作業ができ、セキュリティの確保など、事故を無くすことができたので、大変有益である。
- 引き続き、効率的で安全な学校運営のために、ICT環境の整備には万全を期すことが求められる。
- CMSの導入については、既に一部の県立学校の学校案内に使用され、導入した学校については、各校が同じスタイルになったので、それぞれの学校への検索等がしやすくなった。各学校では情報の更新について、担当者ごとに書き換えができ、能率的であり、更新の遅れがないと好評である。残りの学校についても早期導入が求められる。

## 今後の対応方向

### ① ICT環境の整備

#### 取組み1 校務用パソコンの整備

- ・ 常勤教員1人につき校務用パソコン1台の配備を持続できるよう、引き続き校務用パソコンの更新を行っていく。

#### 取組み2 ネットワークセキュリティー機能強化

- ・ ネットワーク機器については、老朽化による不具合や管理面の負担を軽減するため、引き続き未更新校に整備していく。
- ・ 情報漏えいへの対策として、セキュリティを確保するため、メールの誤送信を防止する機能を導入していく。
- ・ 早期に未導入校へCMSの導入を進め、ホームページ更新等に掛かる作業時間を短縮し教員の負担軽減を図っていく。